

学習シート例1

区分	算数・数学	実務	
項目	時間と時刻(時計)		
<この学習に取り組む意味> 生活の中で、時間の見通しを持つことは、とても重要。 「〇〇をしたら、次に〇〇」という順序で、次の活動内容を知ったり、他の人が活動する様子を模倣して活動を知ったりする力に加えて、「〇時〇分になったら〇〇が始まる」などを、時計の手がかりを見て行動できることは、大変有用であると考えられる。 活動の時間になったら、時計を見て、自主的に行動を始め、終わることができることめざしたい。 また、実生活と結びつけながら学習する中で、将来的には、就労先の一日の活動、仕事等に見通しを持ったり、乗り物を乗り換えながら一人で出かけたり、友だちと約束をしたり、などの余暇活動にも活用できるようにすることにつなげたい。			
<教科の系統性又は前提条件> 時計を学習するには、数字が読めることが必要。			
<キャリア教育の観点から> ・実生活で時計と活動が結び付くような各個人のニーズや好みを活かすことが重要であると思われる(給食を食べる時間や、好きなテレビが始まる時間など)			
<障がい特性の観点から> ・数字が好きな児童生徒が多いので、その得意な所を活かす。 ・ICTや操作する教材を使って、〇×クイズのような形で学習すると楽しく学べる。 ・正解だと、何か楽しいことが起こるなどの教材を工夫すると、モチベーションが高まるのではないかな。			
段階	内容	方法	発達年齢
1	時計の針の動きを知る。	模型の時計や実際の時計で、針を実際に動かして、針が動く様子を知る。	
		同じ時刻を模型の時計で作る。ICTなどを利用する。	
2	日常生活と、時計のつながりを知る。	学校生活や日常生活の中で、ほぼ決まっている時刻とのつながりを知る(「9時50分になったら朝の会」「〇時〇分になったら給食」など)	
3	時計の読み方を知る。	正時の読み方を知る。〇時半、などの読み方を知る。	
		〇時〇分の読み方を、「針を操作する→確かめる」の練習を通して知る。 アナログの時計の針の位置と、デジタルの数字の読みを一致させる(60分割、12分割など、児童生徒に合わせて段階をふむ)。	
		実際の生活の中で、「活動の始まる時間、終わる時間などの時刻を時計を確かめる」など、活用する。	
4	簡単な時間計算を知る。	「あと〇分だったら、何分?」「〇時〇分まであと〇分」などの身近な時間計算を知り、生活で活用する(例:あと5分だったら、おかわりしよう」など)。	
5	単位関係を理解する。	1時間は60分、1日は24時間、などの時間の単位を理解する。	
6	生活のいろいろな場面を想定して、時間管理について学ぶ。	〇時〇分の電車に乗ったら、何時にどこへ着くのかなどの、時刻表の読み方など。	
		「〇時〇分に××で集合する場合、〇時〇分に家を出て、〇時〇分の電車に乗って、集合場所まで〇分歩いて、行く」などができるようになる。	